

# 梅之木通信

## 【縄文住居をつくる会】

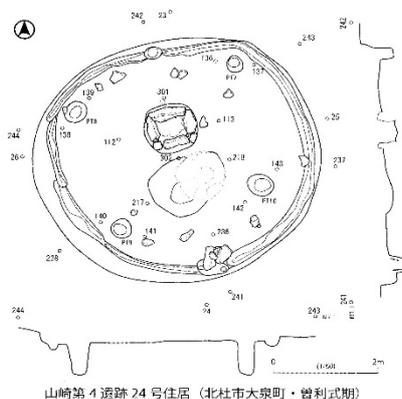
第2号 2019.5.18 発行

### 縄文人になって縄文時代の生活を楽しもう

「縄文時代の住居を再現して建築するのだ！」と最初は意気込んでいましたが、石斧づくりから始まり、木材の切り出し、フジツルの縄づくり、木材の組み上げ、……と現実の課題が目の前に迫ってくると、「本当にできるの？」と不安の方が大きくなり、世話人の中にもなにか重い雰囲気が出始めてきました。知らず知らずのうちに、「楽しむ」を忘れて、「造る」・「完成させる」が目的になってきてしまったようです。確かに、金づちやグラインダーもなしに、石を石で割り、石を石で削るなんて、気が遠くなるような作業かもしれません。しかし、「現代の道具がなかった縄文人だったら、どうやって道具をつくり、どのように住居を作り上げていったのだろうか？」と自分たちを縄文人に置き換えてみると、いろいろな工夫が湧いてくるものかもしれません。縄文の人たちだって決して完璧な住居ができたわけではないでしょう。時には雨漏りもし、時には風が吹きこんで炉の火を消してしまったかもしれません。われわれも縄文人になってみることで作業ではなく、足りない環境を工夫していく楽しさ味わってみたいと思います。

5月12日 設計打合せ

縄文住居の設計をお願いした佐藤千香さんも加わり、今までに造られた住居を参考にしながら、どのような住居を建設するか、具体的な検討が始まりました。決まっていることは、四本柱、床の直径4~4.5m、屋根のこう配35°が理想。ということだけ。垂木はどのように組み上げる？ 天井の高さと広さの関係は？ 入口はどのような形に？ “竪穴住居のデザインなんてみんな同じ”と思っていたら、柱が違えば、天井も異なり、基本的なデザインの段階から検討する必要があることが判明し、とりあえず南棟梁が割り箸模型を作ってみることに。だれも経験が無いことばかりでどのようにすすめたらよいか試行錯誤というより、右往左往の連続です。



四本柱の遺跡サンプル  
床・土台はこんな形になるのでしょうか



垂木を円形に組むにはいろいろ工夫が必要なようです、さてどうしよう。。 重い雰囲気！！

5月16日

高遠の城跡公園を過ぎ、美和ダムを超え、三峰川の河原へ石斧石材調達の旅

縄文人もこんな遠くまで石材を採りに来たの？と考えながら河原に到着。材質・大きさ・素材の均一性・割れ目がない、、、ためしに石同士やハンマーで叩いてみると意外な所から割れてしまい、なかなか石斧になり得る素材が見つかりません。



河原に散開して石材を探す  
こんなにあってもなかなか見つかりません



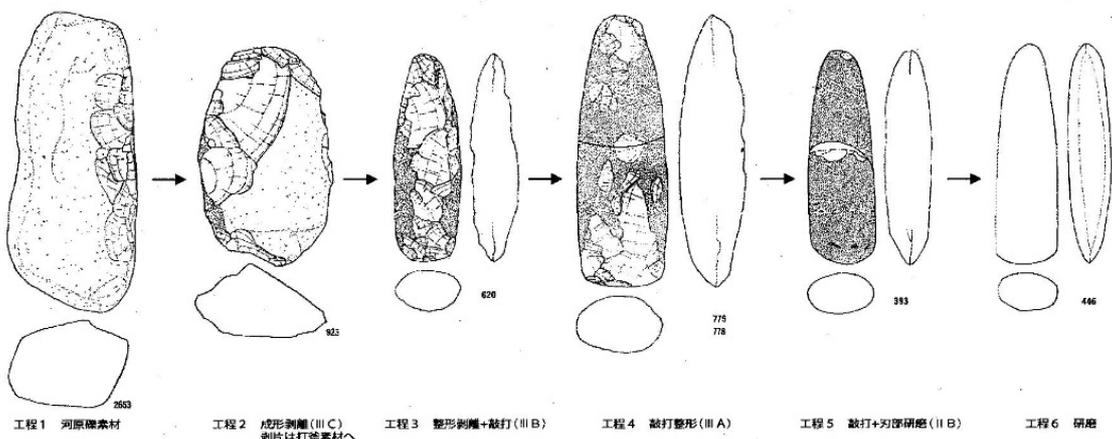
試し割りをしてみると、  
簡単に割れてしまいガッカリ



徐々に縄文人化してきています



こんな斧を一本は造りたいものです



3倍以上の大きさの原材料から割り出していきます シャープさではなく以外に厚さが必要

5月17日～

## 石斧作成開始

16日三峰川で採取してきた原石を石斧に加工するため、石やハンマーで割り始めますが、思い通りに割れてくれないばかりか、思いと違うところでパリッ！  
「あーあ」、のため息が聞こえます。



みな、知らず知らずのうち寡黙に



石斧の振り方にコツがありそうです



中心部分が硬いので最後に残ります

【お知らせ】 ◆作業参加希望の提出、ありがとうございました。

ここ2日ほど石斧造り、伐採、フジツル採取等を実際やってみて、世話人たちもやっと作業内容が実感できてきました。作業監督グループで実際の作業の難しさや作業を行う時期などから再検討したところ、佐野さんから提示されていた作業スケジュールを基に、私たちの日常生活も考慮に入れてスケジュールを再作成することとしました。

**\* これからの暑さ対策を考慮し、一日通しの作業は行わず、基本午前中のみとします。**

人手や、時間を要すると想定される作業の場合には、午後も作業を行います。

午後も残って作業を行いたい場合には、制限するものではありません。

**\* 作業を実施する日は、金・土・日とします。**

集計したところ、木曜日に参加を希望される方もありましたが、非常に少なく現場監督も参加できないため、週3日に集約させていただくことにしました。

**\* 再スケジュールを後日メールで配信しますので、再度参加希望を返信ください。**

現実に即したスケジュールを現在現場監督グループで作成し直しています。

作業の内容に応じて持ち物などをより明確にしてお伝えしたいと考えています。

再度の希望日提出になりますが、よろしくお願ひします。

### 《コラム：世話人のつぶやき》

いよいよ「縄文住居をつくる会」も実践編のスタートです。石斧を作るため、石拾いに行ってきました。伊那市の三輪ダムの少し上流の河原です。周りは新緑の木々が目に優しく爽やかな日でしたが、今回は石拾い。午前中1時間30分、午後からも同様にずっと足元の石を見つめます。まず、形、大きさ。次に石の硬さ、この条件をクリア出来る石を星の数ほどある中から見つけ出すのは大変苦勞しました。眼が点になった一日でした。